

令和6年12月17日  
大阪府立西浦支援学校

## 令和6年度 学校教育自己診断アンケート（報告）

### 【保護者アンケートの方式について】

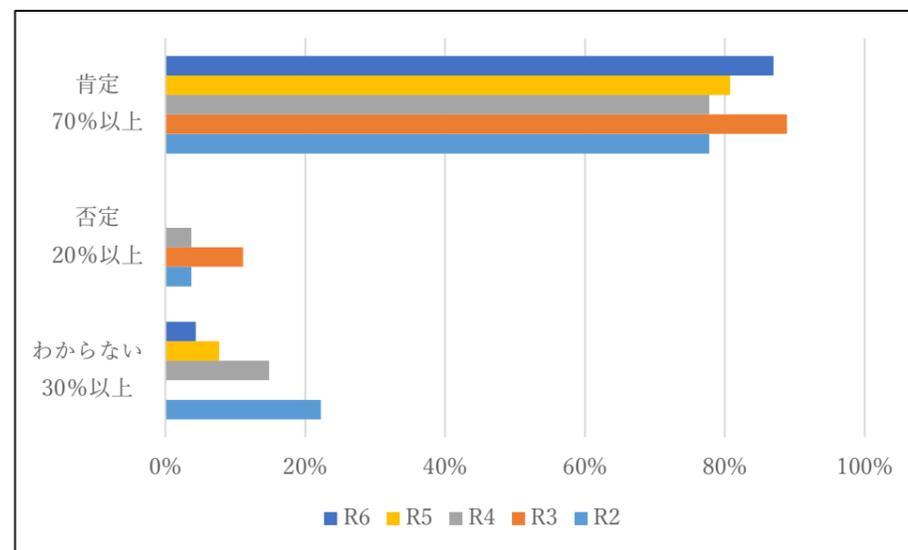
アンケート方式	Web 入力フォーム			
設問数	23問			
設問カテゴリー	○子ども・保護者の支援に関すること ○教育活動に関すること ○学校運営に関すること			
回答方法	A：よくあてはまる	B：ややあてはまる	C：あまりあてはまらない	D：まったくあてはまらない
	E：わからない			
分析方法	A/B：肯定的意見	C/D：否定的意見	E：わからない	

### 【回答率と回答傾向について】

本調査は令和6年10月25日から10月31日の期間に実施しましたが、回答率が低かったために期限を延長して改めて回答をお願いしたところ、約58%の回答が得られました。昨年度の回答率は33%でしたので、大幅に改善しました。

昨年度に続き、「わからない」という回答が減少傾向にあります。西浦支援学校の取組みの進捗状況をまとめ、参考資料として保護者に示した効果によるものと考えられます。また、否定的な意見が20%を超えた項目は2年連続で一つもありませんでした。

### 【意見の分布について】



### 【肯定的意見について】

全項目における肯定的意見の割合が70%以上の設問は全23問中20問と全設問の87%で、昨年度に比べ6ポイント上昇しました。この3年間で肯定的意見が増加してきている項目として「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」「学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている」が挙げられますが、それぞれ今回の肯定的意見の割合が65%、76%と十分に高いわけではないため、引き続き開かれた学校づくりを行ってまいります。

### 【否定的意見について】

全項目における否定的意見の割合が20%以上の設問は今年度0問、昨年度0問、一昨年度1問と良い状態が続いています。ただし「学校は、担任の先生以外にも気軽に相談できる場所を設けている」等、否定的意見の割合が依然として10%を超える設問が複数あり、特に担任の先生以外にも気軽に相談できる体制づくりとその周知は急務であると受け止めています。

### 【「わからない」について】

『西浦支援学校の取組みの進捗状況』の提示により、多くの設問で「わからない」が減少してきています。しかしながら、「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」のみ、今回も「わからない」が30%を超えています。今後も引き続き本校のいじめ対策の取組みを発信し、安心して登校できる学校づくりを進めてまいります。

### 【子ども・保護者の支援に関する項目について】

「学校は、子どもの障がいについてよく理解している」については、肯定的意見の割合が89%と低いわけではありませんが、否定的意見が9%と比較的高い割合になっています。子どもの障がい理解は支援教育には欠かせませんので、全ての保護者に肯定的意見を持っていただくべきだと感じております。研修を実施したり、保護者との情報共有を丁寧に行ったりして、障がい理解を進めてまいります。

### 【教育活動に関する項目について】

「学校は、食事の大切さや食べる喜びを知る取組みを行っている」という設問を新設しましたが、肯定的意見が87%と高い割合を占めました。西浦支援学校ではアレルギー対策を徹底しながらも、子どもが食べることのできる食べ物の幅を広げ、健康的な生活の土台となる食習慣の形成をめざしています。

また昨年度新設した「学校は、タブレット型端末などのICT機器を効果的に活用している」については、肯定的意見の割合が73%と昨年度とほぼ横ばいであり、教員のICT機器の活用能力の向上に加えて利用しやすい環境整備を行い、ICT機器の効果的な活用を促進してまいります。

### 【学校運営に関する項目について】

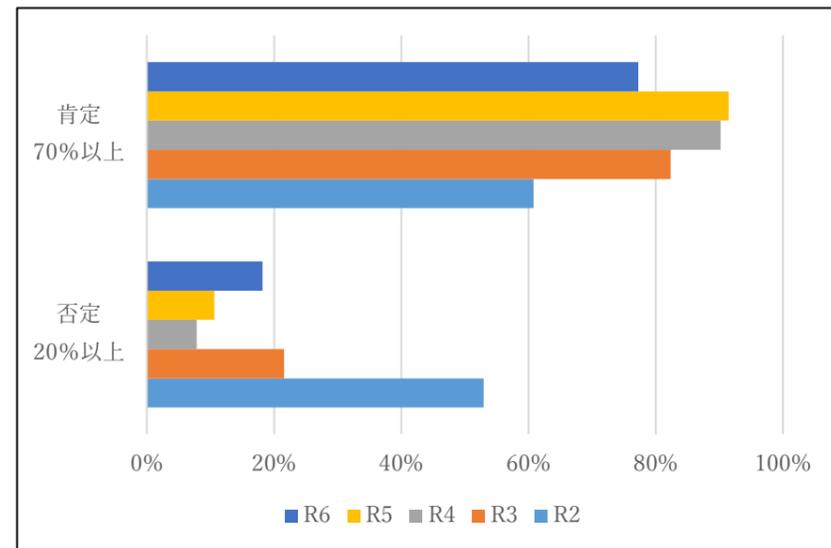
「学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている」の項目のみ、肯定的意見の割合が80%に達していませんが、この3年改善傾向にあります。学校教育自己診断の回答率を高める工夫を行う等、今後も保護者や地域の方々のご意見を受け止める取組みを進めてまいります。

### 【教職員の回答について】

「自立活動の指導にあたり、児童生徒が興味をもって主体的に取り組めるよう、個に応じて工夫している」の設問は、昨年度に否定的意見が 11 ポイント増加したため、今年度重点的に自立活動の研修を行ってまいりました。わずかながら結果が改善しましたので、今後も支援教育の根幹である自立活動を充実させる取組みを進めてまいります。

「児童生徒 1 人 1 台端末などの ICT 機器を効果的に活用している」の設問では、この 3 年で 23 ポイント減少しています。昨年度は、設問に【効果的に】という文言を追加したことで肯定的意見が減少したと分析していましたが、2 年続けて悪化したため楽観視できない状況にあります。教員が自信を持って「ICT 機器を効果的に活用している」と感じられるよう、環境整備と活用能力の向上に向けた取組みを進めてまいります。

また、「校長・准校長のリーダーシップ」「適性・能力に応じた校内人事」「人材育成」等に関する設問で、肯定的意見の割合が 10%以上減少しました。教職員が自身の能力を存分に発揮して教育活動が行えるよう、学校組織全体の課題と捉え、改善策を講じてまいります。



### 【全体考察】

保護者アンケートについては、大きく悪化した設問もなく、全体として良好な結果でした。また、回答率が前回 33%から今回 58%と大幅に改善し、多くの保護者のご意見を聴取することができたと感じています。今後も学校教育自己診断の実施形態や実施時期も含めて、一人でも多くのご意見がいただけるよう工夫してまいります。

また、以下のようなご意見がありましたので、今後の参考にさせていただきます。

#### ○授業や支援、指導に関すること

- ・もっと勉強に力を入れてほしい。
- ・ココカラ学習は大切な取組みだが、抽象的な学びになっているので、専門家の助言を受けてほしい。
- ・年齢に応じた社会的マナーや挨拶、身だしなみについての学習をしてほしい。

- ・学部ごとに支援の柔軟性が異なると感じている。先生個人の差なのかもしれないが、子どもの成長のために保護者と協力して、できる範囲の支援はどの学部・学年・担任でも行ってほしい。
- ・一人ひとりの子どもの特性や性格、気持ちを理解して、ストレスがたまらないよう工夫してほしい。また、それぞれに合った支援の在り方を考えてほしい。
- ・発達の遅れが重度の学習グループの授業は、どれも本人に合っているように感じない。興味を示さない理由を分析して、授業を改善してほしい。学習グループをもっと細分化してほしい。

#### ○進路に関すること

- ・社会へでるために、目上の人への接し方（敬語・態度）を教えてほしい。

#### ○その他

- ・学校での活動の様子を知る手段である学校ホームページを、もう少し更新してほしい。
- ・親が希望すれば、授業中の様子を動画で撮って見せてほしい。
- ・防災についてももう少し進めた対策を共有してほしい。学校にいる時に大規模災害が発生したら、学校でどれくら待機できるか、泊まれるのか、備蓄食は足りるのか。通学バスに乗車中の場合はどうなるのか、先生方も家庭があるなか何人が対応できるのか、保護者ができることは何かなど。
- ・バスが苦手、乗れない子どもが多いので、増便や先生の乗車など工夫してほしい。
- ・内部進学した方にとっては当たり前のことでも、中学部や高等部から来た方には丁寧に説明する必要があることを分かってほしい。
- ・子どもに発語がないため、本人に確認して回答できない。正直アンケートに回答するのが難しい。

### 【学校運営協議会より】

- ・保護者アンケートで、マチコミ配信に加えて連絡帳でも回答をお願いするなど工夫することで回答率が向上したのは良いこと。90%を超える回答率の学校もあるので、今後も工夫を続けるべき。
- ・教職員アンケートで肯定的意見が減少している項目が複数あることが気になる。教職員が頑張っているのは間違いないと思うが、ネガティブな回答が出るというのは児童生徒が様々な発達段階にあり、それに日々向き合っていることが推察される。
- ・教職員アンケートで「校長・准校長のリーダーシップ」「適性・能力に応じた校内人事」の肯定的意見が減少していることについては、意見が言いやすい環境であると捉えることもできる。結果を分析して改善策を考えることに加えて、教職員同士の対話も大切だと思う。